

# 高校1年生に対する情報モラルに関する基礎的学習指導実践について

## A Practice of Basic Information Ethics Education for Tenth Grade Students

村田 育也<sup>\*1</sup>, 坂口 和紀<sup>\*2</sup>  
Ikuya MURATA<sup>\*1</sup>, Kazuki SAKAGUCHI<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>福岡教育大学大学院教育学研究科

<sup>\*1</sup>Graduate School Research Divisions of Education, Fukuoka University of Education

<sup>\*2</sup>北海道富良野高等学校

<sup>\*2</sup>Hokkaido Furano High School

Email: ikuyam@fukuoka-edu.ac.jp

**あらまし**：高校1年生を対象にした宿泊研修において、例年携帯電話会社による出張型教室を実施していたが、生徒らが携帯電話やスマートフォンを使うことに対する問題意識を持ちにくかった。そこで、生徒らに問題意識を持たせ、情報モラル教育の基礎となるよう工夫した3時間の講習を実践した。その結果、多くの生徒らが、携帯電話やスマートフォンの短所を自覚し、情報発信の気軽さや依存症に対する警戒感を持つことができた。

**キーワード**：授業実践、情報モラル、携帯電話、スマートフォン、高校生

### 1. はじめに

教科情報で扱う情報モラル教育は質量ともに充分とは言えず、携帯電話・スマートフォン使用を題材とした情報モラル指導は、携帯電話会社による出張型教室<sup>(1)</sup>などに頼る高校が多い。富良野高等学校においても、高校1年生を対象とした新入生宿泊研修において、携帯電話会社による出張型教室を行っていた。しかし、携帯電話会社による使用を前提とした講習では、使うことに対する問題意識を持ちにくかった。そこで、携帯電話・スマートフォンの長所と短所をあげさせ、高校生にとって本当に必要なものかを話し合うことによって、質的にも量的にも、携帯電話・スマートフォンの使用を考え直す契機となるよう工夫した情報モラル講習を計画し実践した。

### 2. 情報モラル講習実践

#### 2.1 講習の概要

富良野高等学校が1年生150人(男子70人、女子

80人)を対象に、2014年5月8日～10日の2泊3日で、国立大雪青少年交流の家で実施した新入生合宿研修において、その第1日目13:35～16:45の約3時間で、主として携帯電話・スマートフォンを題材とした情報モラル講習を、表1の通り行った。大雪青少年交流の家の体育館で実施し、講師は著者の一人(村田)が務めた。講義形式の一斉学習は、スライドを備え付けのスクリーンにプロジェクタ投影しながら行い、グループでの討論や発表は8人程度が車座になって行った。

#### 2.2 講習の内容と展開

##### (1) ダンバー数・コミュニケーションの限界

宿泊研修の前に、予め学校で「顔を見たら、名前がわかる人の数」など9項目から成るアンケート調査を行って、〇〇する人の数(友人・知人の数)を尋ねた。その集計結果も示しながら、ダンバー数(気遣いしながら持てる友人・知人の数)が約150人であることを説明した。さらに、ダンバー数がコミュ

表1 講習の内容と展開

内容		学習形式・形態		時間(分)	
第一部	ダンバー数・コミュニケーションの限界	講義	一斉	35	63
	グループ作り			10	
	ワークシート1「家族にたずねてみよう」	討論, 発表	グループ	14	
	ワークシート2 配布, 説明	講義	一斉	4	
休憩				11	11
第二部	ワークシート2「話し合おう」必要か	討論, 発表	グループ	24	71
	ワークシート2「話し合おう」長所と短所			20	
	ワークシート2「話し合おう」守るべきこと			15	
	やっかいな脳の説明	講義	一斉	12	
休憩				10	10
第三部	情報メディアの適正使用に必要な3要素	講義	一斉	6	35
	自由と責任, 個人性と責任能力			10	
	不特定多数の人たちへの情報発信			7	
	まとめ			3	
	アンケート用紙配布, 記入			9	

ニケーションの限界でもあり、ネット上で多すぎる友人を持って、SNS に依存する人がいることを説明した。

### (2) ワークシート1「家族にたずねてみよう」

予め学校でワークシート1を配布し、「1人で家にいるとき」「1人でバスや電車に乗っているとき」「3～4人の友だちが集まったとき」などに何をするかを、自分の場合を書いた上で、父母や祖父母が高校生だったときに何をしていたかを尋ねて記入し、宿泊研修に持参させた。暇つぶしに携帯電話やスマートフォンをする自分に対し、父母や祖父母の時間の使い方に気付き、携帯電話やスマートフォンの使い過ぎや、それらが必ずしも必要だとは言えないことに気付かせることを狙ったものである。

### (3) ワークシート2「話し合おう」

ワークシート2を当日配布し、まず、携帯電話、スマートフォンは、高校生にとって必要か、必要でないかの意見を選ばせ、その理由を書かせた。さらに、携帯電話とスマートフォンの長所と短所をあげさせ、使うときに守るべきことをあげさせた。これらをグループ毎に発表させた。

### (4) 情報メディアの適正使用に必要な3要素

情報メディアを適正に使用するために、情報モラル、社会性、法的責任能力が必要であることを述べ、これらは成長とともに身に付けていくものだを説明した。

### (5) 個人性と責任能力

責任能力が充分にない未成年者が個人性の高い情報メディアを使うと、保護者が持つべき責任があるにも拘わらず、未成年者の行為を監督しがたい状況になり、保護者が監督責任を果たせない。

その意味で、高校生のインターネット使用を自動車運転に例えると、仮免路上教習中にあたる。高校生になって使うのであれば、高校進学までに、仮免許に相当する知識と技能を身に付けておく必要があるが、現状は非常に心許ない。また、路上教習時に同乗する教習指導員にあたるインターネット使用に熟練した教育者の指導を受けながら使用するわけでもない。現在の高校生は、非常に困難な状況の中で、

自分で適正に使用することが求められている。

### (6) 不特定多数の人たちへの情報発信

あるシューズメーカーの広告「歩くから人間」と、あるNGOの啓蒙広告「赤ちゃんの指、5本ずつありますか?」を題材にして、不特定多数の人たちへの情報発信は、プロでも失敗することがあるほど難しく、勉強も訓練もしないで、誰でもできることではないと説明した。

## 3. 事後アンケート結果と考察

講習の最後にアンケートを実施した。表2の10項目の内容を生徒らに示して、初めて学んだもの、よく理解できたものを、複数選択可としてチェックを入れてもらった。

初めて学んだと答えた生徒が最も多かった項目はNo.1(ダンバー数)であった。次に多かったのはNo.3(わかっていながらしてしまう理由として説明した脳の特徴)、その次はNo.6(未成年者の法的責任能力)とNo.10(不特定多数の人たちへの情報発信は難しい)であった。

また、すべての項目で、60%以上の生徒が「よく理解できた」と答え、特に多かったのは、No.1(ダンバー数)とNo.2(友人を作りすぎてSNSに依存)で、次いでNo.5,6,7(法的責任能力に関する項目)であった。

自由記述の感想欄には、責任や情報発信の難しさに関するものが多く、使い過ぎに気を付けたいと自戒する者もいた。

## 4. おわりに

生徒同士の話し合いや発表に時間を使ってしまい、第3部の内容の一部を割愛せざるを得なかった。そのため、生徒に伝わらなかったのではないかと心配したが、アンケート結果からは概ね良い評価を得た。

### 参考文献

- (1)NTTドコモ:”ケータイ安全教室出張型教室のご案内”,  
[https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/social/educational/safety/delivery\\_class/](https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/social/educational/safety/delivery_class/) (2014)

表2 アンケート結果(初めて学んだこと・よく理解できたこと)

No.	内容	初めて学んだ		よく理解できた	
		人数	割合	人数	割合
1	人間関係を保てる人の数に限界があること(ダンバー数)	142	0.947	125	0.833
2	SNSで友人を作りすぎて依存する人が増えていること	61	0.407	115	0.767
3	人間の脳には、やっかいな(原始的な)部分があること	114	0.760	101	0.673
4	携帯電話やスマートフォンの必要性は、それほど高くないこと	47	0.313	97	0.647
5	自由の行使には、責任を伴うこと	61	0.407	112	0.747
6	未成年者の法的責任能力(14歳未満はゼロ、14~18歳で大きくなる)	98	0.653	108	0.720
7	未成年者が持てない責任は、一般に保護者が負うこと	51	0.340	109	0.727
8	未成年者が個人性の高い情報メディアを使うことに問題があること	70	0.467	90	0.600
9	匿名でのコミュニケーションは、思っていた以上に難しいこと	94	0.627	90	0.600
10	不特定多数の人たちへの情報発信は、思っていた以上に難しいこと	98	0.653	105	0.700